

祝 辞



国立大学法人琉球大学
第16代学長 大 城 肇

『琉球大学同窓会創立60周年記念誌』の発刊に対し、心からお祝いを申し上げます。1954年12月に、和気政雄氏を初代会長とする琉球大学同窓会が設立されて以来、ここに華甲を迎えられたことに、歴史の重みとともに感慨を深くいたしております。歴代の同窓会の役職員の皆様のご労苦に敬意の念を持って厚くお礼を申し上げます。

琉球大学同窓会の歴史は、琉球大学のもう一つの歴史であります。記念誌に掲載された卒業生の学生時代の活動の記録や画像、母校に対する思いなどを通して、大学が歩んできた足跡が鮮やかに浮かび上がってくると同時に、卒業生の母校に対する誇りや地域の中での存在感の大きさを感じ取ることができます。

ご周知のとおり、琉球大学は、1950年5月22日に開学しました。開学から国立移管になるまでの20余年間、琉球大学は奄美から与那国までの琉球諸島に貢献する大学として、様々な講習会や講座、技術指導などを実施し、地域に貢献する大学としての役割を果たして参りました。

とはいえ、本学が誇るべき最も大きな社会貢献は、7万6千名を超える卒業生を世に送り出し、これらの卒業生が沖縄県内外で社会の担い手として活躍していることです。大学としては、引き続き社会のリーダーとなりうるグローバルな人材を育成し輩出することが重要な責務である、と認識しております。

還暦を迎えた琉球大学同窓会は、今後も寿を重ね、各界各層で活躍する琉大卒業生の足跡を刻み残していくことと思います。歴史を振り返り未来を展望することは、生きていることの証であり、生きていくことの拠り所でもあります。

卒業生が母校の現状を知り、在学生の交流を深め、自らのアイデンティティーを再認識することが出来るよう、2014年から、大学と同窓会との共催によるホームカミングデーを開催しております。このホームカミングデーに多くの卒業生に集って頂くことによって、学び舎への愛着を共通の基盤とした人的ネットワークを在学生をも巻き込んで創り出し、その人的ネットワークを活用して、本学がさらなる地域貢献を果たしていくこと、それが私の夢でございます。

今後、新しい琉球大学の創生のためには、在学生のみならず、卒業生のエネルギーが是非とも必要です。琉球大学と共に歩む、琉球大学同窓会のさらなるご発展を祈らずにはられません。川柳一句で締めます。

夢叶う 同窓の橋 明日に架け

祝 辞



元沖縄県知事
(株式会社りゅうせき 参与)

稲 嶺 恵 一

琉球大学同窓会創立60周年記念誌発行、おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

私としては、従来、琉球大学とのつながりはあったものの、同窓会との縁は全くありませんでした。ところが、今回、幸喜徳子同窓会長の要請を受け、チャリティゴルフコンペの特別顧問を引き受けることになりました。

おかげで、記念ゴルフコンペで始球式を行う榮譽を担うことになり、昨年4月21日、琉球ゴルフ倶楽部に赴くことになりましたが、ゴルフ場を貸切り状態にし、熱気溢れ、かつ和気あいあいとプレーをしておられる多くの同窓生の姿を拝見し、あらためて同窓生各位の母校感を感じ取ることが出来ました。

開催要項を決める事前の会議にも参加しましたが、口角泡を飛ばし、成功に向けての諸課題につき、熱心な持論を重ねたその成果が見事に形となって表れたと言えます。

総会にも出席しましたが、国際色溢れる米国在住の岸本正之氏の講演をはじめ、本土、離島の同窓会支部の活発な動きにも触れることが出来、琉大同窓会の裾野の広さを感じ取りました。本部・支部が密接な連携を保ち、それが、戦後初の高等教育機関として設立された琉大の存在意義を高め、強力なネットワークが広がっていくのを嬉しく感じました。

また、教員候補者選考試験対策講座など、地道な分野でも積極的支援を行い、母校の発展に寄与していることを知りました。

何年分かの会報も、まとめて目を通しましたが、各界各層で活躍しておられる同窓生のつい吹き出してしまうような昔話や、考えさせられる有意義な提言など、印象深いものがありました。

いずれにしても、琉大同窓会の果たす役割は大きく、琉大の地域貢献のみならず、国際社会にも大きな影響を与えていることを感じ取ることが出来ました。

同窓会活動は、いわば一つのボランティア活動です。その様な活動が成功するためには、組織がしっかりすることが最重要課題です。

抜群の行動力と、きめ細かい心配りをされる幸喜徳子会長をはじめ、それぞれの得意分野を担当し、活躍しておられる同窓会幹部の行動に敬意を表したいと思います。

現在、順調に推移している同窓会活動を更に大きく飛躍発展させんことを期待して私の祝辞と致します。

祝 辞



一般社団法人 沖縄県経営者協会
(株式会社 沖縄銀行)

会長 安 里 昌 利

琉球大学同窓会が創立60周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

昭和29年（1954年）12月に第1期、2期の卒業生148名の先輩方によって設立された本同窓会が創立60周年を迎えられたのは、ひとえに歴代同窓会会長を始めとする、琉球大学同窓会会員皆様の御理解と御協力の賜であると思います。

設立目的である、会員相互の親睦と交流、琉球大学の発展に寄与するために、私も会員の一人として、本同窓会が主催した「沖縄の将来を担う若者たちに望むこと」（平成23年7月）をテーマにしたパネルディスカッションのパネリスト、またこの度の創立60周年記念事業に際しましては、チャリティゴルフ大会実行委員長を務めさせていただきました。

大城肇琉球大学学長との「地方創生と琉球大学に求められる人材育成」をテーマに対談した際にも話題となりましたが、沖縄県はかつて琉球王国大交易時代には「万国津梁」の想いを掲げ、海を隔てた近隣諸国との交流を図ってきた歴史がございます。沖縄県にはもともとバイタリティー溢れ、地域間のみならず国際化にも対応できる文化が備わっており、琉球大学にもその特性が備わっていると感じております。

私も経済界に身を置くものとしまして、沖縄大交易会の運営に携わっており、沖縄県内企業だけでなく、日本全国及び世界各国からバイヤーやサプライヤーが集い、熱気に溢れた商談会を年に一度開催されています。その商談会開場にはバイヤーとサプライヤーの仲介役として、琉球大学出身者を含めた県内金融機関職員が活躍しており、まさに沖縄の特性や気質が活かされていると感じております。

今後は琉球大学の専門の先生方が持つ研究や技術と連携して、県内民間企業の技術力を、沖縄と同じ環境の島嶼性がある太平洋の島々でODA事業などに活かせたらと考えております。

幸い本同窓会には、民間企業、行政機関へお勤めの方、または自ら起業された方々が大勢日本全国、海外で幅広く活躍されておられます。本同窓会の大きなネットワークを活用して、大学と経済界がWin-Winの関係が築けると信じております。

グローバル化が進む今日、地域、国内さらには海外で貢献・活躍するため、大学と社会を結ぶ「架け橋」として、今後益々本同窓会が大きく発展することを期待しております。